

2022
2
NO.442

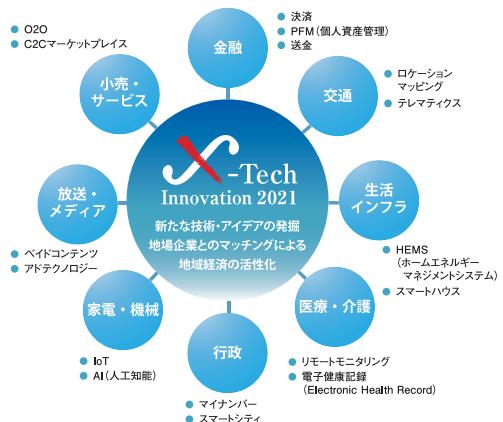
調査ニュース

今月の注目点

地銀共催による日本縦断型の“ビジコン” ～『Social Digital Goods (SDGs)』なビジネス創出に向けて～

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、私たちの日常生活は新たな生活様式への移行に向け、様々な分野でデジタル化が一気に進展しました。そのような中、北海道・東北・九州・沖縄を拠点とする地方銀行（含むグループ）が、ICT活用による先進サービス・ビジネスアイデアの事業化を後押しすべく、日本縦断型のビジネスコンテスト「X-Tech Innovation 2021」を開催しました（地域別の最終選考会を昨年12月に実施）。今年度の最終選考会は、2年ぶりにオンラインでの開催（オンライン併用）となりました。アイデアの発掘、地元企業とスタートアップ企業とのマッチング機会の提供といった場づくりを行うことで、既存ビジネスへの活用、新たなビジネスの創出につなげていくことを目指しています（P 3～5に続く）。

コンテストの目的イメージ図



「北海道地区大会（表彰式）」の様子



最近の道内経済動向	2
どうぎんだより	3

- 革新的なビジネスアイデアの発掘・新たなビジネスの創出へ
～「X-Tech Innovation 2021」北海道地区最終選考会の結果概要～

道内ユニーク企業紹介 シリーズ⑬	6
------------------	-------	---

- 「ダイヤモンド工具」でオンライン企業を目指す
～株式会社コバルテック（札幌市）～

図表でみる北海道 シリーズ⑩	8
----------------	-------	---

- 北海道開発事業費は4年連続で高水準を維持



最近の道内経済動向

- 道内景気は、新型コロナウイルスの影響を主因に依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる。
- 先行きは、緩やかな持ち直し基調が続くと予想されるものの、感染者数の急増による感染拡大防止対策の強化に伴い、下押し圧力が強まることが懸念される。

(注) 基調判断は、2022. 1. 24時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(11~12月実績が中心)。

●個人消費は、一部に弱さが残るもの、持ち直しの動きがみられる

11月の供給側の統計をみると、緊急事態宣言の解除を受けた人流の回復などを背景に、百貨店やコンビニエンスストア販売額が前年から増加した。また、乗用車新車販売台数は前年から減少したもの、2ヵ月連続で減少幅が縮小した。一方、需要側の統計(家計調査)をみると、家計の消費支出額(道銀地域総合研究所による独自試算値)は6ヵ月ぶりに前年から増加に転じた。エネルギー価格の上昇などが下押し圧力となるものの、個人消費は持ち直しの動きがみられる。

●観光は一部で厳しい状況が続くものの、底離れの動きがみられる

外国人入国者数(12月)は、ゼロの実績(前年同月:7人)。一方、11月の来道者数(国内交通機関経由)は、前年比+20.9%と3ヵ月ぶりに増加、19年比(▲36.6%)でも2ヵ月連続で減少幅が縮小した。緊急事態宣言の解除などを受けて、道外客の人流が上向きに転じており、観光は底離れの動きがみられる。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

●設備投資は緩やかに持ち直している、公共工事は減少傾向にある、住宅建築は緩やかに持ち直している

日本銀行札幌支店の12月の企業短期経済観測調査(北海道)によると、21年度の設備投資計画(電気・ガスを除く全産業、含むソフトウェア・研究開発、除く土地)は、前年比+9.4%となった(9月調査比修正率+1.8%)。店舗の新設など非製造業を中心にコロナ禍で先送りされていた投資に再開の動きがみられており、設備投資は緩やかに持ち直している。公共工事請負金額(12月)は、前年比▲35.8%(122億円)と6ヵ月連続で前年を下回った。災害復旧工事の剥落などで発注の減少が続いており、出来高ベースでも減少傾向にある。新設住宅着工戸数(11月)は、前年比+9.0%と3ヵ月連続で増加した。利用関係別にみると、持家が8ヵ月ぶりに、貸家が3ヵ月ぶりに減少したものの、分譲住宅が3ヵ月連続で増加し、全体を押し上げた。

●生産は持ち直し傾向が一服している

鉱工業生産(11月)は、前月比▲0.3%と4ヵ月連続で低下した。輸送機械などが上昇したもの、一部装置の不具合などの影響から、鉄鋼やパルプ・紙・紙加工品などが低下した。

●輸出は緩やかに持ち直している

12月の通関輸出額(速報値)は、前年比+18.8%(260億円)と10ヵ月連続で前年を上回った。品目別では、自動車生産の回復から米国向け「自動車の部分品」(同2.4倍)や「鉄鋼」(同+58.3%)などが増加した。

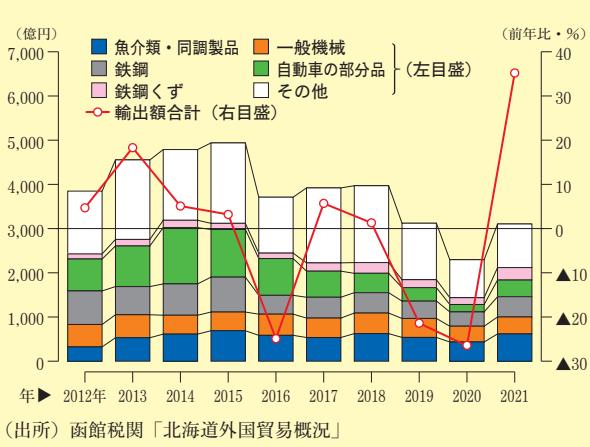
●雇用情勢は弱い動きがみられる

11月の有効求人倍率(パート含む常用)は、1.02倍(前年差0.03ポイント上昇)となった。飲食業や観光関連産業を中心に弱い動きが続いているものの、政府による各種支援策による下支えの下、過度な労働需給の悪化は避けられている。

道内輸出額主要品目の推移

2021年における北海道の輸出額は、前年比+35.2%の3,104億円と19年に匹敵する水準まで持ち直した。

主要品目別にみると、米国向けなどに供給が増えた「自動車の部分品」の増加(同2.2倍の377億円)や、中国での需要回復を受けたホタテなど「魚介類・同調製品」の増加(同+41.9%の617億円)が全体を押し上げた。



革新的なビジネスアイデアの発掘・新たなビジネスの創出へ ～「X-Tech Innovation 2021」北海道地区最終選考会の結果概要～

1. イベントの概要

「X-Tech Innovation」は、“情報通信技術（ICT）活用による、各業界・業種を横断する新しいサービス”を広く募集するビジネスコンテストです。地元企業とスタートアップ企業とのマッチング機会を提供することで、ビジネスアイデアの事業化に向けたサポート、既存ビジネスへの活用、新たなビジネスの創出へつなげようと、北海道地区では北海道銀行が、2016年から本コンテストを開催しています。2021年度は、株式会社岩手銀行、株式会社七十七銀行、株式会社ふくおかフィナンシャルグループ、株式会社沖縄銀行と共同開催し、北海道・東北・九州・沖縄情報を発信拠点とした、地方銀行主催による日本縦断型のビジネスコンテストとして開催しました。

2. 北海道地区最終選考会における選考結果

北海道地区では、「Social Digital Goods【SDGs】（ソーシャルデジタルグッド）」「北海道の新たなステージへ」をテーマにビジネスアイデアを募集。最終選考会（12月9日）は、地域の主要産業を支える企業の「ゲストパートナー」、日本を代表する「協賛企業」、自治体や関連団体の「サポーター」といった多くの皆様にご参画いただき、応募いただいた23組の中から1次選考（書類）・2次選考（面談）を経て選出された12組の企業が、7分間のプレゼンテーションを実施。審査員5名により、最優秀賞1組・優秀賞1組・審査員特別賞1組が決定しました。

なお、北海道地区的最優秀賞には、『ホテル事業者が旅前から、旅中・旅後まで効果的に旅行者にアプローチできるアプリ「AirHost ONE（エアホストワン）』についてプレゼンを行った株式会社エアホストが選出されました。以下では、最終選考会進出者のビジネスアイデア（概要）を紹介いたします。

最優秀賞

地方創生とサステナブルツーリズムによる 北海道観光のネクストステップ ～株式会社エアホスト～

同社は「観光DXで旅の未来を変える」をミッションに、旅前から、旅中・旅後まで効果的に旅行者にアプローチができるアプリ「AirHost ONE（エアホストワン）」を開発。セルフチェックイン、メッセージ、周辺観光情報、ルームサービス・ツアーの予約・販売ができるアップセル機能、食事の時間予約など、ホテル・旅館が入口となり、旅に必要な全てをメインメニュー一つで欲しい情報を旅行者の欲しい時に届けることが可能です。



優秀賞

非接触型ハンディ体重推定装置 豚の体重測定の労力を大幅に削減 ～株式会社ノア～

養豚場の豚は、特定の場所への誘導が難しく、動き回るため、体重測定を行うために多大な労力がかかります。そのため、養豚現場では、写真撮影と同様の簡単なアクションにより体重測定したい、というニーズがありました。

そのニーズに応え、同社では、ハンディタイプの非接触体重推定装置を考案し、2015年から開始した研究開発の結果、2021年に推定誤差率3%以下の体重推定装置を上市しました。



非接触の撮影アクションのみで
豚の体重を測定

審査員特別賞

「旅×シゴト」で地域と旅人をマッチング

～株式会社 SAGOJO～

同社が展開する全国の企業・自治体と、スキルを持つ旅人のマッチングプラットフォームでは、クライアントが地域を実際に訪れ、依頼したい仕事へ取り組んでくれる旅人を募集・スカウトすることができます。

クライアント（地域）からの依頼は「アフターコロナの観光促進」「少子高齢化対策（移住・関係人口の獲得）」の課題が中心で、主に「PR・コンテンツ制作」「新商品企画」「モニター」「ファンコミュニティ運営」「一次産業のお手伝い」などへ旅人が取り組んでいます。

旅人に対するリターンの内容は様々で、マッチングに必要なスキルのレベルは高～低まで幅広く、あらゆる旅好きが「旅×シゴト」のライフスタイル・働き方を実践することができます。



北海道地区最終選考会進出者一覧

<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>AIQ株式会社</p> <p>Feel Commerce</p> <p>FeelCommerceは「あなたの憧れる人から、好きなモノをすぐに買えるサービス」です。投稿者は、自分の好きな商品の情報報をFeelCommerce上に投稿。購入者は、憧れの人(投稿者)の情報を見て、商品を購入します。</p>	<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>シーダースコミュニケーションズ株式会社</p> <p>地域の稼ぐ力を経度緯度化! 世界に伝わる情報の場 「Gnome(ノーム)」</p> <p>様々な地域情報(サービス・交通・観光等)を緯度緯度情報と結びつけた「階層型ナビゲーションMAPプラットフォーム」を開発。消費者は簡単にワンストップで地域情報をアクセスでき、集客・販売増や地域消費を拡大したい事業者や自治体は主体的に消費者との接点を作ることができます。</p>	<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>株式会社ティラーワークス</p> <p>コミュニティビジネスプラットフォーム 「Tailor Works」</p> <p>地域企業のビジネス課題解決や産業課題解決を目的としてネットワーク醸成を行うことができる、コミュニティビジネスプラットフォームを提供しています。地域のビジネスユーザーは、アブリ上で同じ課題を抱えているユーザーと交流を持ったり、テクノロジー企業から課題解決策の提案をもらったり、地域コーディネーターからアドバイスを受けることができます。</p>	<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>株式会社ノア</p> <p>非接触型ハンディ体重推定装置 ～膝の体重測定の労力を大幅に削減～</p> <p>義肢場の膝は、特定の場所への説教が難しく、動き回るため、体重測定を行うために多大な労力がかかります。そのため、義肢現場では、写真撮影と同様の簡単なアクションにより体重測定したい、というニーズがありました。そのニーズに応え、弊社では、ハンディタイプの非接触体重推定装置を考案し、2021年に推定誤差率3%以下の体重推定装置を上市しました。</p>
<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>株式会社バオバブ</p> <p>発達障害者の適性を生かして 一次産業のAI化を支援</p> <p>私達バオバブがこれまでの実績を通じて蓄積してきた学習データ作成のノウハウ・育成プログラムを障害者就労支援施設に展開することで発達障害者や自閉症に学習データ作成作業を委託します。</p>	<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>株式会社FORH BODY PERFORMANCE</p> <p>部活と地域のスポーツ・文化系指導者をつなぐ プラットフォーム「BUKATSU」</p> <p>学校の現場では部活動が先生方の労働時間超過へと繋がり過労死や指導したことがないことによって大きな負担となっています。令和5年以降に部活動を段階的に地域の指導者へ移行することになりますが現在地域や自治体では指導者確保が大きな課題となっており、探す手間や手続きシステムに課題あります。これらを解決するためのプラットフォームがBUKATSUです。</p>	<p>Social Digital Goods (SDGs)</p>  <p>reddfax 株式会社</p> <p>cyzen(サイゼン)</p> <p>行政のDX。例えば、職員の報告業務、施設や公共部門の管理・労務管理に利用可能。勤務時間記録や作業点検・訪問記録など専用フォーマットに沿って位置情報、設備等の場所情報つきで記録可能。各種情報は権限に沿って参照できるので、職員の現在の稼働状況や業務報告内容がリアルタイムで共有可能。</p>	<p>北海道の新たなステージへ</p>  <p>AIRHOST エアホスト</p> <p>地方創生とサステナブルツーリズムによる 北海道観光のネクストステップ</p> <p>私たちちは「観光DXで旅の未来を変える」ミッションに、旅前から、旅中・旅後まで効果的に旅行者にアプリができるアプリ「Air-host ONE」を開発。セレブチェックイン、メッセージ、周辺観光情報、ルームサービス・ツアーアの予約・販売ができるアーバセル機能、食事の時間予約など、ホテル・旅館が入口となり、旅に必要な全てをメインメニュー一つで欲しい情報を旅行者の欲しい時に届けます。</p>
<p>北海道の新たなステージへ</p>  <p>株式会社SAGOJO</p> <p>「旅×シゴト」で 地域と旅人をマッチング</p> <p>全国の企業・自治体・スキルを持つ旅人のマッチングプラットフォーム。クラウドアントは、地域を実際に訪ね依頼したい仕事を(アクション)へ取り組んでくれる旅人を募集・スクワットすることができます。</p>	<p>北海道の新たなステージへ</p>  <p>株式会社たびふあん</p> <p>小さな宿と旅のファンを結ぶ プラットフォーム「やどふあん」</p> <p>特定のことに特化していて、特定のファンをもつマイクロインフルエンサー」を活用し、中小宿と旅のファンを結ぶことで、旅のロングテール・マーケットをつくります。旅のファンは、ここだけしかみられないLIVEコンテンツなどを楽しめます。事業を通じて、資本力で認知されにくい、中小宿を応援します。</p>	<p>北海道の新たなステージへ</p>  <p>株式会社とける</p> <p>オンラインコミュニティ「北海島プロジェクト」で 北海道の今を知り、 未来を描く「北海島プロジェクト」</p> <p>現在、月額有料コミュニティ「北海島プロジェクト」に150名以上の会員が所属しております。このメンバーと共に「オンライン×オフライン」を混ぜ合わせて、北海道の今を届け、未来を描くような動きをメディアミックスを行なながら創成していきます。</p>	<p>北海道の新たなステージへ</p>  <p>株式会社hakken</p> <p>乾燥技術と地域分散拠点による、 あたらしい課題解決「UNDRI2」</p> <p>日本で最も野菜を生産する北海道には、その分多くの上流工程での廃棄が存在します。各地に弊社の業務用乾燥機を設置して乾燥野菜を蓄積していくとともに、北海道全体の未生産野菜のデータベースを作り、最適な配分に繋げる事業です。</p>

3. グランプリファイナルにおける選考結果

各地区での最終選考会において、最優秀賞、優秀賞を受賞した8社の企業を対象に、グランプリファイナル（1月19日）を開催しました。新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴い、オンラインを併用しての開催となりましたが、オンラインを通して多くの方にご視聴いただき、8社によるレベルの高い、7分間のプレゼンテーションが実施されました。

グランプリファイナルでは審査員が選定する最優秀賞、優秀賞のほかに、オンライン視聴者がWEB投票をおこなうオーディエンス賞を設け、最優秀賞には九州地区の株式会社エンペイ（サービス名：集金業務を圧倒的にシンプルにする「enpay（エンペイ）」）、優秀賞には九州地区のBPM株式会社（サービス名：クラウド型CMMS「Qosmos（コスマス）」）、オーディエンス賞には沖縄地区の株式会社lolol（サービス名：視聴者の笑いと臨場感を共有できる動画配信システムlolup）が選出されました。

X-Tech Innovation 2021では、デジタルテクノロジーを通じて、「社会的な課題解決」と「企業の競争力向上」を同時に実現するサービス・ビジネスのアイデアを募集しました。コンテストについての詳細・動画は、X-Tech Innovation 2021の特設ウェブサイトをご確認ください（<https://www.ibank.co.jp/xttech2021/>）。

北海道銀行では、今回の取り組みを通して、優れた技術やアイデアの事業化支援や、既存ビジネスの課題解決支援を行うことにより、地域経済の活性化に努めて参ります。関心や興味を持たれた企業やサービス内容がありましたら、下記までお問い合わせ願います。（松田 基貴）

北海道銀行 コンサルティング営業部（TEL：011-233-1163）

「ダイヤモンド工具」でオンリーワン企業を目指す ～株式会社コバルテック（札幌市）～

地球上の天然鉱物の中で最も硬いダイヤモンド。その特性を生かし、金属やコンクリートなど硬質材の切削・切断・穿孔（穴あけ）・研磨に使用されるのが「ダイヤモンド工具」です。今回は、東北以北で唯一のダイヤモンド工具メーカーとして土木・建設工事向け製品を供給し、穿孔用工具分野でニッチトップ企業を目指す株式会社コバルテック（以下、同社）を紹介します。

【経営のポイント】

- 技術力と開発力（品質・信用・信頼の源泉） ■ニッチトップを目指す（競争力・優位性の確保）
- 徹底した顧客志向（顧客課題の解決） ■環境志向（社会課題の解決）
- 外部リソース活用による営業力強化（人的資源の補完）

ダイヤモンド工具の魅力に惹かれて起業

同社は、ダイヤモンド工具メーカー2社での勤務経験（通算約20年間）を通じて当該工具の奥深さに惹かれた現・竹俣社長が起業し、2009年に設立。以降、北海道・東北地区で唯一のダイヤモンド工具メーカーとして、刃の“切れ味”と“寿命”を追求しつつ、道内を中心に着実に販路を拡大してきました。

オンリーワン製品の開発に注力

取り扱う製品は、土木・建設工事向けに特化。アスファルト路面等の切断に使用する円盤状の「ブレード」、コンクリート等の穿孔に使用する筒状の「コアビット」をメインとし、オンリーワン製品の開発に注力しています。

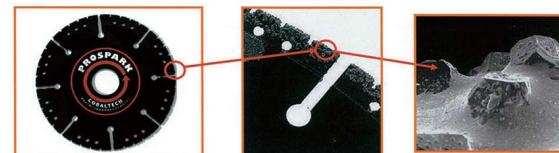
例えば、2011年に市場投入した、“溶着ダイヤモンドブレード”（製品名「マルチスパーク」。写真1）は、チップ状の刃を独自の構造にすることで鋳鉄管を始めとする多様な被削物に対応。寿命は一般的な切断砥石の50倍以上と高い耐久性も実現。さらに、火花の発生が少なく作業の安全性向上に資する製品です。

作業効率・環境面で画期的な乾式コアビット

また、約3年間の試行錯誤を経て2016年に製品化したのが、“設置型穿孔機械向けの高性能な乾式コアビット”（製品名「水なし君」）、およびセットで使用する“集塵アタッチメント”（同「集じん君」）（写真2）。コンクリート等の穿孔作業では、回転するコアビットの刃が摩擦熱で高温になり切削性能や寿命に悪影響を及ぼします（ダイヤモンドは熱に弱い性質）。この

ため、冷却用に水をかけながら作業を行う“湿式”スタイルが一般的ですが、実は、周囲の養生、水の用意、廃水の処理を必要とする点が大きなネック（手間）となっています。しかし当該製品は、水を使わない“乾式”スタイルにてこれらのネックを解消。さらに、「集じん君」を取り付けることで、切削粉塵を飛散させずに接続する業務用集塵機（市販品）に回収できます。コアビットの刃を独自の特殊な形状（Vカット状）にした点も大きな特徴の一つ。基盤との接着強度を高め、加えて、空気の取り込み量を増やすための工夫です。集塵機の強い吸引力が最大限に刃先に伝わることで、その風流が冷却効果を生みだし、乾式でありながら湿式に近い性能発揮を実現。「水なし君」と「集じん君」は、作業効率を大幅に改善し、かつ、環境にも優しい製品としてユーザーから高く評価されています。なお、当該製品の塗装には北海道をイメージできるラベンダー色（紫色）を採用。ど

（写真1）“溶着ダイヤモンドブレード”「マルチスパーク」



（写真2）“乾式コアビット”「水なし君」と「集じん君」



ここで使われていても一目で、道内発の同社製品であることがわかります。

新たな市場開拓に向け「JIN」を開発

さらに直近では、小規模工務店から一般家庭までを販売ターゲットとする、“集塵機能付き乾式ハンドコアドリル”（製品名「JIN（ジン）」を開発（写真3）。「水なし君」と「集じん君」が比較的規模の大きい工事用であるのに対し、これはホームセンター等でも入手可能な手持ち型機械（ハンドドリル）に取り付けできるため、小規模工事に適しています。手持ち型で集塵機能付きの製品としては国内初。集塵シャンク（アタッチメント）は軽さを重視し、材質を硬質アルミ製にするなど独自の工夫が施されています。

同社は「JIN」が使われる場面として、コンクリート構造物の改修・補修のほか、エアコン設置・電線工事等での壁の穴あけから日曜大工まで幅広い作業シーンを想定。リフォームや耐震補強需要の増加、住宅地での近隣対策（粉塵飛散抑制）、人手不足等に対応できる製品として、これまでとは異なる新たな販路の開拓が可能とみています。

攻めの一手で企業の着実な成長を図る

こうしたビジネス機会を逃すことなく企業の着実な成長につなげようと同社では、「JIN」を中心とする製品の量産化を可能にするべく設備投資を実施。新社屋とともに、従来よりも数倍広い工場・倉庫を新設し、作業の高度化に向けて製造機械も更新しました（2021年11月竣工）。さらに、営業面での人的制約を補うために外部リソース（中小企業基盤整備機構によるマッチングサポート）を有効活用。首都圏に販路を有する国内大手の工具商社数社との取引実現に向け具体的交渉を行うなど、新たな市場開拓を着実に進めるための取り組みも進めています。

なお、同社は新品の製造販売だけでなく、擦り減って使えなくなった刃の再生事業にも注力しており廃棄物削減に貢献。実は、再生作業には優れた接着技術・ノウハウが求められ、当該事業を行っているのは全国で数社のみです。それだけ参入が難しい分野であることから、同社の技術力および品質の高さをPRする効果もあるようです（写真4）。

“コンクリートの穴あけならコバルテック”と言われるように、ニッチでのオンリーワン企業を目指す」と今後を見据える竹俣社長。「JIN」の機能をさらに進化させる製品の開発構想も既に描いています。

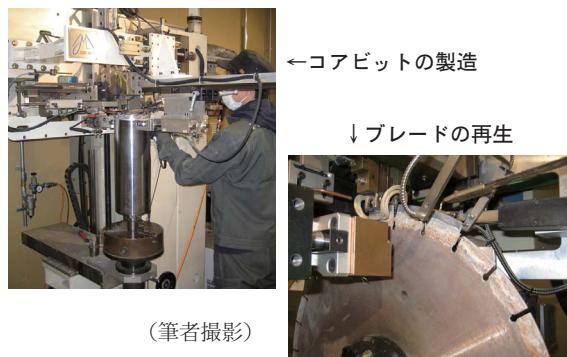
徹底した顧客志向の姿勢や製品品質の高さに裏付けられた信用を積み重ね、ユーザーから厚い信頼を獲得している同社。今後も顧客に必要とされる企業として、成長を続けていくことでしょう。（黒瀧 隆司）

（写真3）“集塵機能付き乾式ハンドコアドリル”「JIN」



（写真1～3はいずれも、株式会社コバルテックの提供）

（写真4）刃付け作業の様子（工場内）



【会社概要】

本 社 札幌市白石区中央3条2丁目1番30号
☎：011-876-8755 FAX：011-876-8753
設 立 2009年12月
代 表 者 竹俣 真伸
資 本 金 1,000万円
従業員数 7人（2021年12月末現在）
事業内容 ダイヤモンド工具製造・販売、工具再生
U R L <https://cobaltech.co.jp/>

北海道開発事業費は4年連続で高水準を維持

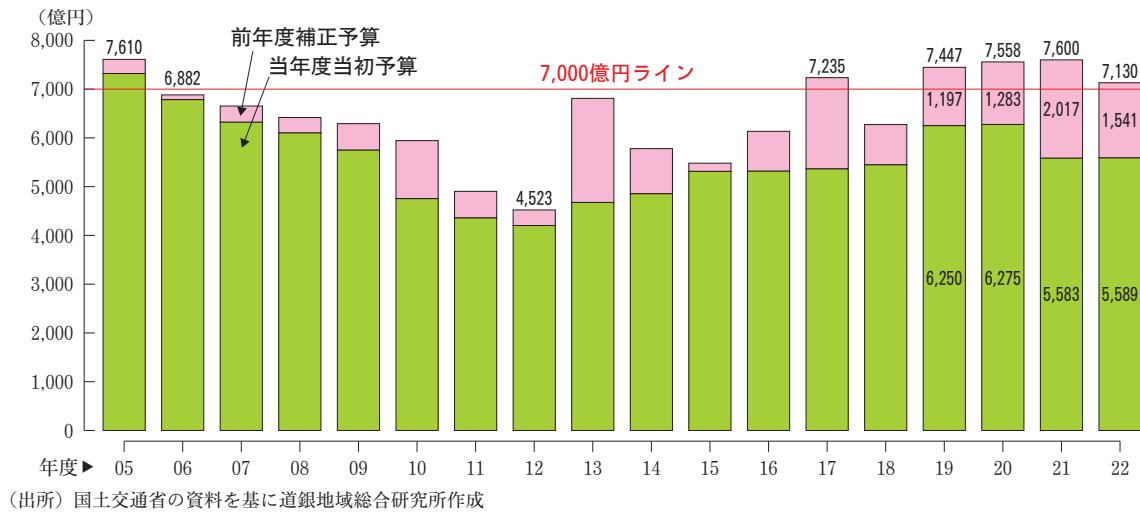
北海道開発については、北海道の資源・特性を活かして我が国の発展と課題解決に寄与するため、国が策定するビジョンである北海道総合開発計画（現行：第8期）に基づき諸施策が推進されています。北海道開発事業費はこの推進に向けた国の予算です。当初予算ベースでみると、2022年度は5,589億円と前年度当初（5,583億円）並みの予算確保となりました。「治山治水」や「道路整備」、「農林水産基盤整備」など主要事項で前年並みを確保する中、無電柱化や通学路の安全確保などの道路環境整備を含む「住宅都市環境整備」（前年度当初比+16.0%）が大幅に増加し、北海道開発事業費全体を下支えしました。

一方、執行ベースでの参考となる合算予算額（前年度補正予算+当年度当初予算）をみると、22年度は7,130億円（前年比▲6.2%）となりました。当初予算の比較では前年並みとなるものの、前年度補正予算の比較で476億円減少したため、4年ぶりに減少しました。減少の背景には、20年度第3次補正予算では、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」の初年度分として1,577億円と大規模な措置がとられたものの、21年度補正予算では1,018億円にとどまったことが背景にあります。

合算予算額は減少したとはいっても、その水準自体は4年連続で7,000億円を超えるなど、引き続き高水準を維持しています。一方、予算措置が高水準を維持したことで、人手・資材・機材の不足等による執行の後ズレも懸念されます。道内経済への波及効果を最大にすべく、引き続き官民一体となった発注・執行の円滑化が期待されます。

（加茂 健志郎）

図表 北海道開発事業費（前年度補正予算+当年度当初予算）の推移



調査ニュース (2022・2) NO.442

発 行 株式会社 北 海 道 銀 行 (ウェブサイト <https://www.hokkaidobank.co.jp>)

企画・編集 株式会社 道銀地域総合研究所 経済調査部 (照会先: 伊藤慎)

〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目1番地 道銀別館ビル

TEL (011) 233-3562 FAX (011) 207-5220

〈本誌の無断転用、転載を禁じます〉